



ウィーン

2018年夏休み、
日本を飛び出して
新しい発見を
しませんか!?

派遣高校生大募集!





荒川区の親善大使として、ホームステイを通じ、
ウィーンの高校生と互いの文化を学び合い、
国際的な視野を広げましょう！
荒川区国際交流協会はチャレンジする高校生を応援します！

派遣先

オーストリア共和国ウィーン市ドナウシュタット区

派遣日程

平成 30 年 7 月 27 日 (金) ~ 8 月 7 日 (火)
10泊12日間 (予定)

活動内容

ウィーン市およびその近郊の施設見学・学習、ホームステイ、
帰国後の報告書作成、派遣報告

参加費用

約 16 万円
(予定経費【渡航費、宿泊費、食費等】の約 1/2 相当)
お支払方法は一括払いのみとなります。

対象

荒川区内在住の高校生 6 人 (書類と面接で選考)

応募方法

応募書類を協会事務局に持参または郵送
平成 30 年 5 月 8 日 (火) (必着)

申込み・問合せ

荒川区国際交流協会事務局
〒116-8501 荒川区荒川 2-2-3 荒川区役所 文化交流推進課内
(区役所 3 階 1 番窓口)
電話 : 3802-3798 メール : bunka@city.arakawa.tokyo.jp

ウィーン市ドナウシュタット区 2018年度 派遣高校生 募集要項



応募条件

- 申し込み時から派遣時を通じて区内に在住していること。
- ウィーンからの派遣生（男女問わず）のホームステイを受け入れること。（8月中旬～下旬）
- 国際交流に関心があり、派遣の目的を理解し、派遣終了後も荒川区国際交流協会のボランティア会員として事業に協力できること。
- 健康で、海外生活やホームステイ、団体行動、交流事業に対応できること。
- 日本の生活や文化、荒川区について積極的に紹介できること。
- 保護者の同意が得られること。
- 英検3級程度以上の英会話力があること（公用語はドイツ語）。
- 事前研修会および事後報告会にすべて参加できること。
- 研修終了後も荒川区国際交流協会の事業にボランティアとして協力できること。



応募書類

- 参加申込書一式（区役所・区内図書館・区民事務所で配布）
- 作文「ウィーンへ行ってやってみたいこと」（原稿用紙3枚、1000～1200字程度、手書き）
 - 作文には、次の項目を必ず記述してください。（1）ウィーンに関して興味があるテーマ、（2）テーマに関してウィーンへ行ったらやりたいこと。



選考日程

- 5月 8日（火） 応募書類受付締め切り
- 5月15日（火） 書類審査結果および選考面接時間通知発送
- 5月19日（土） 荒川区役所にて面接審査
- 5月22日（火） 審査結果通知発送

派遣決定後に、健康上の理由または派遣に不都合な理由が生じた場合、派遣の資格を取り消すものとし、派遣資格が取り消された場合、または派遣者の都合により取りやめた場合、それまでに要した経費および取消に係る経費は応募者の負担となります。



説明会・研修

- 内定者説明会 5月30日（水）18時～（場所：荒川区役所）予定 出席者：保護者・派遣生
- 事前研修会 6月中旬～7月下旬 計3回程度予定 出席者：派遣生
（内容：異文化コミュニケーション、ドイツ語研修、OB・OGとの交流）
- 出 発 式 7月下旬予定 出席者：派遣生
- 派遣報告・受入説明会 8月中旬予定 出席者：保護者・派遣生
- 事後報告会 9月下旬～ 計3回程度予定（派遣報告集の作成）

事後報告には3月初旬開催予定の荒川区国際交流協会主催「外国人のための日本語スピーチ大会」の運営補助を含みます。

～2017年度派遣生の声～

Q. 英語は大丈夫だった？



A. Oさん 私はホームステイの経験がなく、自分の英語がどのくらい通じるのか心配をしていましたが、いざ行ってみると思っていたよりも会話をすることができて自信につながりました。

Q. ウィーンで学んだことは？



A. Mさん 私は事前研修のテーマにしていたマリアテレジアだけでなく、美術にも関心を持っていたので、宮殿や王宮、美術館などを訪れることができとても光栄でした。

A. Nさん 日本人とオーストリア人とでの物事のとらえ方の違いを知ることが出来ました。そして、時事問題、方言や宗教について毎日話し合ったことは私の英語力の向上、英語に対する自信にも繋がりととても良い経験になりました。

Q. ウィーンのホストファミリーの様子はどうだった？



A. Oさん 10日間、楽しくオーストリアでの時間を過ごせたのは、優しくて素敵なホストファミリーのおかげです。英語が決して得意でなかった私を温かく迎え入れてもらえてとても嬉しかったです。

Q. ウィーンの高校生を受け入れた時は？



A. Mさん ウィーンの高校生は好奇心旺盛な人が多く、街を歩いているだけでも疑問が多く飛び交い、私にとっては日本文化を考え直す良いチャンスとなりました。